

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目の や 等）から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
.理念に基づく運営	22
1.理念の共有	3
2.地域との支えあい	3
3.理念を実践するための制度の理解と活用	5
4.理念を実践するための体制	7
5.人材の育成と支援	4
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1.一人ひとりの把握	3
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成	3
3.多機能性を活かした柔軟な支援	1
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との連携	10
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1.その人らしい暮らしの支援	30
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
.サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

【取り組みの事実】

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的なかつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

【取り組んでいきたい項目】

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

【取り組んでいきたい内容】

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（1から 87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（88から 100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようにご注意ください。

事業所名	グループホームおちあい
（ユニット名）	
所在地 （県・市町村名）	秋田県能代市落合字上釜谷地 187-2
記入者名 （管理者）	近藤 篤
記入日	平成22年 3月

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営			
1.理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>「個々の人間性や生活史を理解、尊重し安全に留意し誠意を持って介護支援させて戴く。」という理念の下に取り組んでいます。</p>	<p>認知症の方々が地域の方や職員に見守られ、その人らしく、ありのまま、ゆったりと生活していけるような関係づくりに取組んでいきたいと思えます。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>職員が目にする玄関に理念を貼り出し実践に向け取り組んでいます。</p>	<p>日々の業務の中でも全職員と理念の共有を行い継続して取り組む姿勢を崩さず努力していきます。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議での場や、家族へのお便りで報告しておりますが、地域の方々に理解して頂くには、まだまだ取り組みに至っていない状況です。</p>	<p>地域住民の一人ひとりの方々に信頼されるホームを目指し、地域の方々と全職員が一緒に関わりを持ちながら、認知症の方々を理解し馴染みのあるその場所で支援していけるよう努めていきます。</p>
2.地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>外出時や洗濯物を取り込む時等に隣人の方と顔を合わせた際は、お互い挨拶を交わします。職員から声を掛けたりしています。</p>	<p>今後も一部の職員だけでなく、全職員で声掛けをし、近所付き合いが継続し広がっていけるような取り組みに努めていきます。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>近隣の養護学校とは、体育祭、文化祭等にも招待されるなど交流も行っています。</p>	<p>年2回実施している避難訓練にも地域住民の方にもっと参加していただき、理解と協力を得ていきたい</p>

グループホームおちあい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の中にあるホームとして自立した生活が困難になって来た方の相談や・家族の悩み等、地域の為に貢献したいと考えております。		気軽に立ち寄り、些細なことでも相談できる窓口になるよう取組んで行きたいと思います。また行事にも参加の声をかけていくなど、地域の方との交流に取り組んでいきたい。近所のお茶のみ場・寄り合いの場に利用して頂けるようにしていきたいと思います。
3.理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価で新たに改善を知るきっかけになり改善が必要な所に気づかされ、出来るところは改善しています。		職員会議以外でも、日々、気付きの中で項目に合わせた内容を確認しあい、自己評価並び外部評価の実施に取り組む努力をしていきたいと思ます。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所のあるがままを知っていただく為、新型インフルエンザ対策や年間行事計画などの現状の報告をしています。		運営推進会議の参加者の方々で、施設や利用者の方々と世間話をして頂き、活気ある会議に繋がっているが、運営推進会議が地域の方々には、集まる一つの機会として、考えてもらえる様に努力していきたいと思ます。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議への出席はもちろん、それ以外で積極的に足を運んでいます。例えば、提出書類やわからない事などは直接尋ねることもあります。		申請書類や提出書類は、直接足を運んでいます。また、わからない事などは、電話などで相談したりしています。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在は、学ぶ機会や活用する事が出来ていません		今までは対象者もなくきましたが、必要な方に対しては支援をして行きたいと思ます。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修などへ参加し、そこで得た情報は職員間で共有しています。不定期に管理者から虐待や不適切な援助などについて申し送りを行い、日頃から意識できるよう努めています。		

グループホームおちあい

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>重要事項に沿った説明を行い、入所後も疑問な点、苦情など話してくれるよう、声がけ行っています。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者には問いかけを行い、ご家族には面会時又はプラン作成時に問いかけは行っていますが、遠慮してなのか訴えが少ない。</p>	<p>職員から積極的に声掛けし、意見を言いやすい雰囲気(信頼関係)づくりをしていく。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>面会の都度や状態の変化があった時などは、管理者から報告させて頂き電話連絡等で、こまめな報告に努めています。</p>	<p>ご家族の面会時以外でも随時、利用者からの必要に応じた希望を連絡をさせて頂いたり、施設からの近況も伝えていきます。年2回ホームたよりも発行しています。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議などを定期的に行い、家族などが意見できる場を設けています。その意見を基に会議などで話し合いより良い運営が出来るよう努めています。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月1回のカンファレンス時、全職員で疑問や提案・意見等を会議への議題にして話し合い、積極的に対応しています。</p>	<p>現場職員が率直な意見を持てるような支援体制と、その意見が仕事に反映できるようにしていきたい。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>行事や緊急・臨時受診などの状況に対し、柔軟に勤務変更を行い、対応に努めています。</p>	<p>今後も現場の状況に応じた柔軟な対応が行われるよう全職員で業務に対する内容の検討を行い、全職員が一体感が持てるようにしていきたい。</p>

グループホームおちあい

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>18 職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>離職者があった場合は十分な配慮が必要であると思われる。</p>		<p>今後も変化に対する受け入れを全職員で共有し、お互いに支援し利用者様や家族の方々・関係機関の方々への影響が軽減されるように努めていきます。</p>
<p>5.人材の育成と支援</p>			
<p>19 職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>事前に把握できる研修の参加希望者には、参加できる勤務としています。また、介護福祉士、介護支援専門員などの資格取得をすすめております。。</p>		<p>外部での研修や他事業所との研修に参加出来るよう体制を整えていきます。</p>
<p>20 同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホームの施設交流と研修等には参加をしています。</p>		<p>交換研修やイベント等に出来る限り、全職員が順番で参加すると視野が広がり、知識や情報交換などにもつながる為、参加出来るよう行っています。</p>
<p>21 職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>親睦を深めるために、職員の歓迎会、忘年会などを開催しています。</p>		<p>これからは、他事業所との交流を持ちながら介護上のストレスを発散できる企画・活動をしていきたい。</p>
<p>22 向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員の努力や実績を認め日常の会話や、会議などで話しています。資格取得に必要な講習には参加できるようにシフトを調整しています。</p>		

グループホームおちあい

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居者からの希望、要望があった場合、話をよく聞き対応しています。</p>	<p>家族の方々の協力も得ながら、本人にとって大切なことや出来事をしり、それを支えられるような信頼関係を築きあげていけるよう努力していきます。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>管理者から、家族の不安な点の相談により、電話対応等も含めて丁寧な対応に努めています。また、職員間でも、家族が面会に来た時には、本人を交え会話をしたり、その場で受けた質問には答えられるように努めています。</p>	<p>今後も御家族が気兼ねなく相談出来るよう、言いやすい環境づくりに努力していきます。</p>
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>ほとんど空きが出ない事もあり、待機者もいるため相談からすぐに入居とならない事の方が多い。在宅で生活されている方は困ってすぐにも入居させたいという家族もあり、現状で使えるサービスの紹介を伝えています。</p>	<p>今後も継続し利用者様の生活が安心して続けていけるよう十分に検討しながら利用者本位の支援に努めていきます。</p>
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>事前にご本人やご家族からの情報を得ることで、希望や意見を尊重する取り組みに努めています。施設の日課を押しつけることなく、徐々に馴染めるよう努めています。</p>	
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>日常生活で利用者と職員が共に家事や軽作業、レクなどの日課を行い、共に助け合いながら感謝の気持ちを表して、良い関係を築いていけるように努めています。</p>	

グループホームおちあい

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時などに入居者様と職員を交え日常生活のお話を伝え、ご家族様に協力していただける部分は出来るだけ支援してもらえよう関係作りを心掛けています。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご本人とご家族からの聞き取りや日常生活からご本人の生活史や考え方などを把握し、ご本人や家族と対話する機会を設けて、より良い関係を築いていけるように努めています。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人とご家族からの聞き取りから、ご本人の生活史や馴染みの人・物などを把握し、ご本人の意見を尊重して、以前の関係が途切れないように努めています。		
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者個々の得意なこと、生活史や日常生活状況を把握し、それを踏まえ利用者が孤立しないよう職員が見守りながらその場に合わせた声かけや対応が出来るよう努めています。		
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	必要に応じていつでも気軽に相談をしていただけるような体制はできています。		退去時に何かあれば遠慮なく連絡してくださいと話し、退去後も協力関係を継続するよう努めています。

グループホームおちあい

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>個々の日常生活を踏まえ、ご本人の意向や要望を伺いながら、さり気なく援助出来るよう努めています。</p>	
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>ご本人やご家族、担当ケアマネなどから、在宅時などの生活歴や暮らし方などを伺い把握できるよう努めています。</p>	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>毎日のバイタルチェックや個々の生活状況を把握し、その方の有している能力を見極め援助できるよう努めています。</p>	
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>毎日の申し送り、カンファレンスでの情報収集や、日ごろからの小さな気付きや思いを大切にし、面会時などには家族との情報交換を行い介護計画に反映させ、入居者、家族からの同意を得ています。</p>	<p>利用者様や家族の思いが日々の生活に実践的に活かしていけるよう努めていきます。</p>
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>日々の生活を必要に応じて随時、見直しを行うとともに、家族と面談の上、承認を得ています。</p>	<p>日々の生活の中で、変化に応じて観察し必要に応じての介護計画の見直しを行える様、努力していきたいと思えます。</p>

グループホームおちあい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、個別に内容を記録し、申し送りや連絡ノートの活用によって情報を共有し統一したケアの提供に努めています。		その人らしさを全職員が理解し、利用者様の思いが計画に活かせるよう利用者様が生き生きと安心して生活できるよう記録にとどまることなく実践していきたいと思います。
3.多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入院時の援助や自宅への送迎など、ご本人やご家族の要望に可能な範囲で対応できるよう努めています。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関、医療機関等と協力しながら支援している	避難訓練を年に1回実施し、消防署から職員を派遣してもらい実態を把握してもらっています。今年度に救命講習を消防署で実施しております。地域のボランティアによる歌の会、読み聞かせ会などを行っています。近隣の学校や文化施設などの訪問なども実施しています。		ボランティアを積極的に受け入れ、外部の空気を取り入れ、事業所の活性化につなげていきます。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問理容サービス等を支援していますが、まだまだ他のサービス提供を実現できるよう利用者様・家族・全職員・他事業者の方々との話し合いの機会を多く取れるように努めていきます。		利用者様と家族の意向や要望に応じて、相談・検討しながらすすめ、関係機関や他事業者の方々の協力を得られることができるよう支援に努めていきます。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	要支援認定の利用者の受け入れの前例がないが、地域包括支援センターより情報を得るようにしています。		こちらから相談や情報収集など積極的に働きかけ協力体制を密にしていきたい。

グループホームおちあい

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		<p>医療支援を行う中で、本人や家族の希望が叶うよう努めています。</p>
44	<p>認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		<p>医師の指示や助言が気になったりしたら、いつでも家族と共に相談に応じてもらえるよう努めていきます。</p>
45	<p>看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		<p>協力医のところの看護師が2週に1回、健康管理に来所してくれています。</p>
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		<p>病院の方々との信頼関係を保ちながら利用者様の心身の精神的軽減につながるような対応に努めていきます。</p>
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		<p>家族と共に、医師・看護師との話し合いの機会を交え話し合い、共通な方向性持ってかかわれるよう努めていきたいと思えます。</p>
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		<p>事業所として出来ること、出来ないことの見極めをし、今後の変化に備えて検討します。</p>

グループホームおちあい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、本人及び家族に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>他の介護施設や医療機関へ移る際には引継ぎ事項を文書や口頭での説明で状況を理解してもらえるようにしています。</p>		<p>退所後も利用者様の生活環境や介護の継続がスムーズに行っていけるよう支援したいと思います。</p>
<p>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1.その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>記録などの個人情報管理は徹底していますが、利用者のペースに合わせず一方的な援助を行っている場面もあり、改善が必要と考えています。</p>		<p>個別面接による職員個々の改善事項などを洗い出し、より良い援助が行われるよう努めたいと思います。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を「尊厳の保持」に配慮して行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>入居者が興味を持っている会話や言葉かけをしています。その際にゆっくり分かりやすく話すように心がけています。入居者一人一人の性格を把握し安心出来るよう配慮しています。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>入居者のペースを優先した離床・食事・外出・排泄・入浴等の支度に努めています。入居者が出来ることを見守り支援し褒めることで生活意欲を高めるように支援しています。</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>入居者一人一人が望むよう支援しています。理容に直接出かける入居者に対しても送迎し安心して出かけるよう努めています。理容に行けない入居者は、訪問理容を利用して頂き支援しています。</p>		

グループホームおちあい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好きな物を献立に取り入れ彩りよい盛り付けと一手間かけた調理を行っています。材料を切ったり後片づけ等出来る範囲で手伝って頂き楽しく食事が出来る雰囲気作りを実践しています。		地産の食材やホームの畑で収穫した野菜を使って一手間かけた調理を行っています。今後も継続して行きたいと思います。
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲み物・おやつなどはおやつの時間以外飲用してもらったり、一人一人の好きな物も日常の会話にてさりげなく聞き入れ本人の為に支援しています。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう「尊厳の保持」に配慮して支援している	オムツを出来る限り使用しないために、入居者一人一人の排泄チェックシート活用し排泄パターン把握しトイレでの排泄の自立に向けたさりげない声かけや誘導などの支援を行っています。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、入居者一人当たり週2回のペースを行っています。入居者の健康状態や意志を尊重し、無理のない入浴支援を行っています。体調不良等の場合は、翌日入浴してもらったりと状態を見ながら支援しています。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居者一人一人の睡眠パターンを把握し夜間眠れない入居者には、一日の生活のリズム作りを通じた生活環境や生活習慣の改善を心がけ、安眠出来るように努めています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者が個々の得意な事や生活歴や力を生かした役割を持てるように支援しています。また、合唱・楽器演奏・折り紙・塗り絵・様々なゲーム等のレクリエーションや時には気晴らしのドライブを楽しんだりしています。		

グループホームおちあい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者一人一人の所持金については、運営規定によりお金の管理はしてもらっていませんが、入居者の希望があった場合は、本人の欲しいのが購入出来るように対応しています。購入時は、施設で立替えて対応し、ご家族に月1度、領収書を発行しています。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	施設の周囲は見晴らしが良く道路の傾斜も少ないので入居者は無理なく散歩などの外出が出来ます。買い物やドライブで外出することもあり、希望あれば施設で立替えをして買い物を楽しんでいます。また、施設近くの畑での農作業を行ったりと野外での活動も徐々に行っています。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人の強い希望があれば家族の方々と連絡を取り合い、その都度対応しています。家族の方が受診帰りに一緒にお食事してくることもあります。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、支援しながら電話をしてもらっていますが、認知症の進行とともに一部の利用者様以外は、電話の声が認識出来ない状況です		家族も都合に合わせて面会に訪れています。来所しやすい環境を整えていけるよう努めていきたいと思えます。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時、ホールか居室で過ごすか入居者に意向を尋ね、いづれか選択してもらい、くつろいでもらえるように対応しています。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	契約書や重要事項説明書にも条項の中で盛り込んであり、拘束のないケアができるよう日ごろから念頭に入れて全職員が意識し実践しています。		身体拘束の研修会等が開かれる場合には、積極的な参加を促していきます。

グループホームおちあい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	センサーを設置しているが、今のところ作動することがないです。日中は、必要に応じ玄関に鍵をかけています。		以前はすべて開放していたのですが、問題がなくなれば施錠しないで、すべての戸は開放していきたい。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は、入居者の側について見守っている状況にあり入居者の様子がわかっています。夜間は、布団に鈴をつけるなどし安全に配慮しています。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬や洗剤・消毒薬・刃物等注意の必要な物品については、保管場所や管理方法等を明確に取り決めてそのとおりに実行しています。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日中、職員の見守り充分に出来、側について歩行器や車椅子を使用し誘導しています。夜間、物品保管(薬)については入口に施錠しています。防災マニュアルを誰でも見れる所に置いています。		
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行っている	年2回、日中夜間事故発生に備え避難訓練を実施しています。特変に備え心肺蘇生法を講習受講できる体制を行ったり、緊急時対応マニュアルを作成しています。		今年1月・2月・3月能代消防署のAEDの使い方を含め応急手当の講習を予定しており受講することになっています。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホーム内で年間計画を立て、災害に対しての避難誘導・訓練を実施しています。		消防訓練の際には、近所の住民にも沢山参加してもらい共同で避難訓練が出来るようにしたいと思います。

グループホームおちあい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	利用者様の状態に応じ、常に安全に暮らせるように支援を行っています。変化の著しい状況のときは電話や場合によっては来所してもらい家族に説明しています。		家族への連絡・報告をし家族の理解を得ながら安定した生活が送れるように努めていきます。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	入居者状態観察表の活用と毎日のバイタルチェック表の活用で個々の体調把握。協力医療機関の医師の往診は月2回位行っています。血液検査を年2～3回実施・胸部レントゲン・心電図検査も実施しています。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	すぐ確認できるように服薬管理表を掲示したり、薬の内容を記録し、目的や用法について理解する様努めています。		全職員が正しく内容を理解しているとは言えないので、今後、理解を徹底していき慎重に服薬管理の対応に努めていきます。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	状態観察表に個々の排便回数を記録し個々の状況に応じて下剤服用しています。食物繊維と水分補給を取ってもらうように努めています。(カボチャ・ごぼう・とうもろこしを多く利用する)ラジオ体操や散歩・軽運動を日課にしています。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	昼食後は、個々に声かけし自身で手入れしてもらってます。朝・夕食後は入居者自身が洗浄した後に職員が確認している。夜間は、職員が義歯洗浄剤を使用し衛生管理に努めています。		
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	現在は、スタッフがカロリー計算し献立表に明記しています。状態観察表には、個々の食べた摂取量を10段階に分けて記録にしています。		水分摂取量の記録は行ってないので今後記録していきたい。又、随時提供できる工夫を考えていきたい。保健所や栄養士を招きアドバイスを受けたら勉強会を実施したいと思っています。

グループホームおちあい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルに沿って実行しています。ノロウイルス・新型インフルエンザの流行に対しては話し合いしグループホームでの取り決めを作りました。季節型インフルエンザの予防接種を利用者様は実施しています。		全職員が感染予防を意識して、感染が確認されたら安全かつ迅速な対応に努めていきたいと思えます。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具は毎日1日の終わりに塩素系で消毒しており食品は、賞味期限を見て期限内に使用しています。週2回の買い物で新鮮な食材を使っています。施設の畑で採れた地産地消の野菜を使う心掛けをしています。理日誌に毎日メニューを記載しています。冷蔵庫・冷凍庫の2つを使い常に新鮮さを保っています。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	日中、鍵をかけず玄関に小さなブザー音が鳴るスイッチを備えています。玄関前のプランターには、草花を植えて置いています。白いベンチや昔懐かしい瓶には造木を入れ植木鉢にして利用して飾っています。玄関先に、見えやすい所に施設の名前を掲示しています。冬は、除雪等を行い安心して出入りが出来るようにしています。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に悪臭がでない用にパイプ掃除をしています。その日の天気に合わせて電気の明るさを調節しています。テレビや職員の会話の音や声の高さをその都度注意して改善しています。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの食卓と椅子・テレビの前に置かれたソファ等一人になることが出来る居心地が良い空間が用意されています。施設内の入居者一人一人が楽しみ事や出番を見つけれるような自分の居場所を確保しています。		

グループホームおちあい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、木製のベッド・ロッカー・パネルヒーターを備え付け、テーブル・椅子・装飾品等は本人の使い慣れたもの、思い出深い写真・アルバム等の置物が持ち込みされて安心した自室で過ごしています。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度計・湿度計を利用活用し入居者に暑くないか寒くないか確認しながら職員が室内の温度調節を行っています。各個人の居室には、パネルヒーターがあり本人も操作可能な状態にあります。加湿器もホール・廊下に数台設置しています。汚物の臭い等は、芳香剤などを利用して消臭に努めています。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム全体がバリアフリーの構造で要所に手すりが設置されています。洗面台は、車椅子で利用も可能な高さに設置され電気のスイッチも手が届く場所についています。室内は、明るく生活が送れます。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	活字が得意な入居者は、毎日日記を書いて家族の訪問時読んでもらっています。(新聞等活用) 昔、音楽の先生だった入居者は、歌が好きでレクなどで唄っています。料理作りが好きな入居者は、スタッフと一緒に食事のお手伝いをしてもらっています。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	クリスマス時は、外壁や柱にイルミネーションを飾っています。雑祭りには、ホールに雑壇飾りをしています。玄関先には、季節感を表す飾り物や置物・生け花で鑑賞できるような飾り付けをしています。施設外にある畑では、入居者と一緒に野菜を育てています。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

.サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

グループホームおちあい

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・当施設は、大型病院が近くにあるため、突然の緊急時など直ぐに昼夜関係なく対応できる環境にあり安心して過ごすことができます。
- ・施設外にある畑で入居者と一緒に野菜を育てたり収穫したりして皆様と一緒に楽しみを分かち合うように支援しています。
- ・また、施設で収穫した野菜を調理し食を楽しんでもらったり、四季折々の旬を取り入れた食を味わってもらっております。